

こんな装備で山奥行って コンテストやっています

零細移動コンテスト屋の実態 2023σ^_^;

JM1LZT 富山俊一

この4年ほど、年に6,7回の頻度で移動して50MHz CWのコンテスト参戦ということを繰り返してきました。

おかげさまで結果も徐々に上向いてきて、賞状も何枚か頂けました。

そこで、誰に問われたわけでもありませんが、自己点検と反省という意味合いも含め、今回はどんな装備で日々私がコンテストに臨んでいるかのご紹介です。本当に自慢でも何でもなく(なにせ自慢できることが一つもない)、もし今後コンテストをやってみたいという方がいらっしゃった場合、「なあ～んだ、この程度で出来るのか」と思っていたきたくて「機密暴露」する次第です(^O^)

そもそも大前提としてクルマで行ける場所であるというのがあります。自慢じゃありませんが、「担ぎあげ」って、一度もやったことがありませんし、たぶんこれからも^^;

それでも、ごく初期は車外にテントを設置しその中でオペレートしてました。しかし程なく「クルマの中でやればいいじゃん」ということに気づいてしまい、現在は100%車中運用です。

さて電源。賛否両論あると思いますが、基本的にはクルマのバッテリーから直接引いた電源を使っています。もちろんコンテスト中はエンジンかけっぱなし。24時間コンテストの場合、オルタネーターの能力と消費電力のバランスが気になるころですが、バッテリーも標準よりワンサイズ上の容量に変えてあり、今のところ問題は起きてません。ただし、いざという時のため、50Ahのバッテリーを毎回3,4台持参はしています。二酸化炭素排出による環境負荷はどのよとツッコま

れると、なかなかツライところですが、ガソリン駆動の発電機を使っても実質的に同じだろうと、自分で自分に言い聞かせています。AC電源がない環境なので、ローテーターも12V駆動のものを使っています。エモトが奇跡的に502の12Vタイプをまだ作っていて(2019年時点)何とかありました。ちなみに、このローテーターとの組み合わせで、通称「ふみてーたー」というタイヤベースを使っています。240諸兄もご記憶かと思いますが、2022年の電波伝搬実験にも参加いただいたJH1LTR古池OMの手作りの品。大変な優れもので、タイヤベースにローテーターを固定し、マストと平行に単管の「添木」を付けることで、ローテーターへの負担を防いでいます。私はこれに今はなきフジインダストリーの「おばけポール」約11m長をのっけて、7エレをぶん回しています。もちろん、添木があるとは言え、ステーは必須で、毎回3方向に2段ステーを取っています。



アンテナは当初ダイヤモンドの4エレHB9CVでスタートしましたが、すぐにラディックスの6エレを買い足し、さらに現在は同じくラディック

スの7エレも使っています。コンテストによって多少構成は変えてますが、JARLの全国コンテストでは6エレと7エレを、ローカルコンテスト(東京コンテスト、東京CWコンテスト、多摩川コンテスト)では6または7エレと4エレの組み合わせに。そして2022年の多摩川コンテストからは6エレに加え、池さんからQSYしていただいた2エレデルタループを使い始めています。言うまでもなく、絶対的なフロントゲインを必要とする全国相手の場合はやはり7エレということになりますが、1エリア内がメインのロカコンの場合は、ゲインよりも適度なビームのブロードさも要りそうです。また、夏場のEスポシーズンには、多少打ち上げ角が高めの方が有利な場合も。このあたりのベストな組み合わせについては、いまだ絶賛試行錯誤中です^^;

アンテナ2本体制のため、タイヤベースとは別に、オリジナルベースを用意してあります。ジュラルミンの板にフジインダストリーの仮設用ベースのマスト接合部を溶接したオリジナルです。これに8mものおぼけポールをのっけてやはり2段ステーを。クルマからある程度離れた位置にサブアンテナとして6,4エレまたはデルタループを設置。同軸は5D-2Vの25mものです。サブの方はローテーターなしなので、メインを一番よく向けている方向とは90度ずらして設定しています。



肝心の無線機ですが、これが実にショボい。FT-891Mの本体を助手席下に置き、コントローラーをダッシュボード上に。私は助手席に座り、Amazonで買った中華折りたたみテーブルを置き、その上にノートPC。PCと無線機はUSB一本で接続し、コンテストロギングソフト ctestwin でリグコントロール。基本的にCWばかりなので、コンテスト中はコールサインとコンテストナンバーを聞き取り入力すれば、後はFキーを押すだけ。一応「非常事態」に備えてパドルも繋いであるものの、出番はほとんどなし。Heilのヘッドセットも繋いではあるものの、マイクは上げたまま。使うとすれば、「前夜祭、後夜祭」のQSOの時ぐらい。6m and down や多摩川コンテストの時はSSBもやるので、リグ内蔵のイコライザーでコンテスト向けの音作りを試みてはいるものの、今ひとつ決定打に欠けている現状です。FT-891は本来「お手軽モバイル用」として出てきたのだらうと思います。私のように「コンテストで使い倒」してるのは、世界的にみても私ぐらいではないかと、変な自負(?)があります。一応バンドスコープはありますが、リアルタイム表示にすると音は聞けないというナゾのスペック^; まあ、バンド内の混み具合を知るためにはこんなもんかなとは思ってます。一応スマホでRBNを見ているのと、ctestwinでtelnetを見て、バンドマップを表示させてはいますが、デュアルワッチでskimmerを使ってる方からすれば、笑っちゃうような装備です。



基本的なセットはここまで。後は現場合わせてパッチンコアをあっちこっちに入れたり入れなかったり。PCの内蔵バッテリーだけでは24時間コンテストでは不足するので、PC用に小型ポータブル電源を1台。さらに細かいところでは、夏場用にハンディ扇風機ぐらいでしょうか。

18～24時間コンテストともなるとどうしても食事問題が出てきます。日ごろ「やせの大食い」な私ですが、なんと信じられないことに、コンテスト中はほとんどまともに食べてません。時間が勿体無いというのと、下手に食べると眠くなるからです。一応開始前には、サンドイッチ、おにぎり系を食べますが、本番中の主食(?)はヴィダーインゼリー的なものです。気分はほとんどカブトムシ(^_^); 飲み物は、夏場はクーラーボックスにロックアイスを2,3袋入れたところにペットボトル、缶コーヒー。秋口は大型のステンレスポットに熱いコーヒー。ドーピング用のレッドブルも欠かせません。そして、コンテスト終了後に食べる「自分へのご褒美」としてのカップ麺♪後半の数時間は、毎度このカップ麺のためにやってると言っても過言ではありません(^。^)

日を追うごとに加齢が進み、体力の衰えは隠せません。設営、撤収共に少しでも手軽に出来るよう、あれやこれや工夫してますが、そもそもオンエアするバンドを高い方に変え、装備の軽量化をせざるを得なくなる日も、そう遠くはなさそうです。

まっ、もうちょっとだけ、「至福のカップ麺」のために頑張れるところまで頑張ってみたいと思っている今日この頃です(^_-)

